

教訓を糧に次の運動へ



2016年 春闘中間総括会議特集



No. 2721
2016年6月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

地方本部は5月8日、仙台市ホテル法華クラブにおいて16年春闘の中間総括会議を開催した。会議には各支部と分会代表が参加し、それぞれの機関においての総括を持ち寄り、賃金闘争をはじめ労働条件改善や組織問題など様々な角度から活発な意見交換を行い全体で総括した。

自らの春闘の総括を

主催者の地本大沼委員長は、「職場からの闘いを集約し、成果と課題を明らかにして労働条件改善、組織強化・拡大、平和憲法擁護のための参議院選挙闘争勝利に繋げる重要な総括の場」と集会の意義を述べ、全機関の総括報告を求めた。

続いて来賓のエリア本部菊池委員長からは、経過・情勢等について報告を受けた。(要旨二面掲載) 続いて地本原子書記長が、仙台地本の春闘の経過と今後の課題について提起し各支部報告と全体討論に入った。

各支部報告

宮城県支部

山田書記長

今春闘では貨物の仲間、委託・外注先の仲間との交流を積極的に実施し、会社の不当性と扱われ方に怒りを持って闘う決意

5・17 支社団交(職場環境・ダイヤ改正積み残し)
5・19 東北交運鉄軌道部会・本社経協
5・21 地本電気協議会・工作協議会定期委員会

5・21 国労結成70周年記念労働講座
5・22 エルダー・嘱託社員交流会
5・26・27 東日本本部野球大会

職場を掛持ちしている。支部では交渉窓口になれないので地本の積極的な対応を求める。現場の声を大切にして闘っていくことが重要だ。

福島県支部

佐藤書記長

春闘討論集会を開催。一要求から現場長交渉へ各分会で追求する意思統一。職場問題改善の取組み。作業ダイヤや要員張り付けの改善、お問い合わせセンターと忘れ物センターの取り扱い時間の変更など、職場実態調査から団交で要求を改善。異動の要求。我々から具体的に会社に提言し希望を通してきた事例も。他労組若手の通勤問題にも相談に乗り、現場での話し合いから地元への転勤や配属が実現。「選挙活動だけでなく職場の問題を取り上げるのが労働組合」と、職場で国労が認知されている。

山形県支部

鈴木執行委員

春闘行動、米沢地区の報告になるが、ほぼ全員参加。また仙台から米沢に異動になった組合員との交流会も開催。米沢駅に新規採用者1人が配属された模様。関わりを持つよう要請。TSS。若手見習いで駅に配属。通常は駅を何駅か掛け持ちで業務を行うが、フォルククローロ(ホテル)と兼務の話も聞く。駅業務とは系統が別だが確認する。

仙総所支部

高橋書記長

春闘。1月に支部闘争委員会を設置。分会が取り組んだ調査が団交の武器になった経験から調査・点検活動の強化を要請。職場環境問題は、分会代表が「社員の声」として現場長要請を実施。支部と3分会が現場長と話し合い。国労の声を聞く意識の変化を作り出して

郡工支部

橋本委員長

春闘。大衆行動の取組み。参加目標は達成。客貨一体の闘い。会社

東北自動車支部

兜森書記長

職場状況。高速ツアーバスの事故を受けて国交省から貸切バス営業所にドライバーレコーダーの指導が。事故以外は使えない条件で付けたが路線バスでも見ており、制帽着用の有無など低レベルの労務管理に使用。組合員の半数がエルダー。若い人は入社しても低賃金で辞めていく。会社は打開策として、遠距離通勤者への交通費補助や単身赴任者へのアパート家賃の3割負担をしている。が手厚いとは言えない。春闘。統一要求として賃上げをはじめとした8項目の要求書を提出。4

東日本本部菊池委員長情勢報告

1. 16春闘経過

国労要求獲得に向けた闘い。東日本本部は2/8に第33回東日本本部委員会を開催し、ベア1万5千円の統一要求に千円加算を要求の柱に。2/12に春闘要求書を、2/25には夏季手当3.5ヵ月プラス一律5万円の要求書を提出。

しかしその後交渉はストップ。3/17日に緊急申し入れ、3/23に全地方・地区本部が12支社に一斉申し入れ。3/30には関東（東京）・東北（盛岡）ブロックで緊急抗議集会を開催。集会終了後、三度目の緊急申し入れを行い、3/31の団交開催が示された。

交渉では、定期昇給と所定昇給額の1/10+500円、夏季手当2.85ヵ月+2万円の回答で、持ち帰り検討とし終了。

直後の執行委員会では、「最大労組が席上妥結の状況で再回答の提出は困難」との判断から4/1回答を受け入れ妥結整理。貨物は17年連続ベアゼロ。

2. 国労春闘総括

中央戦術委員会では、ストの提起と議論に終始し、組織現状と各エリア交渉の進捗や情勢分析もないまま戦術議論が行われる問題が。

中央本部は、戦術判断・決定は中央本部が行うとのスタンス。しかし「具体的戦術については中央戦術委員会で決定する」という中央委員会方針との整合性はどうか。また闘争指令の提起がされたが、交渉日程が決まらないエリア本部としては動きようのないのが実情。結果、中央本部は闘争指令を闘争指示に変更し、エリア本部に判断を委ねる形に。

昨年を上回る賃金引上げの回答は引き出せなかったが、東日本本部の緊急抗議集会に、全エリア本部がアピールや檄文を寄せるなど各エリア本部の自主的判断による連帯行動が取組まれた。

今春闘の最大の成果は、職場からの春闘と結合し取組んだ組織拡大。

西日本で3/1付（32歳）、4/1付（28歳）、東日本では大宮車両所分会で、2/5付（25歳）、郡山駅連合分会で、3/23付（23歳、30歳、32歳、40歳、56歳）の加入を勝ち取れたこと。最大労組と会社に大きなインパクトを与えた。

東日本本部は今年、東日本本部執行委員会に戦術委員会を設置。戦術判断の場が作られ、再三の緊急申し入れや各地方・地区本部に全12支社への交渉促進の申し入れ、3/30の緊急抗議集会の開催等、JR東日本の対応を見つつ戦術を高める取組みが作り出せたことは17春闘につながる結果。

地方の取組み。3/4東北総行動に400人、仙台独自行動に270人、新橋支部は200人が結集。職場での取組みでは、「一組合員一要求」を中心に、全組合員参加の取組み、現場長への要請行動など創意工夫した取組みがおこなわれた。

今春闘の特徴点。国労東日本、国労西日本、国労東海では、交渉推移を見極めつつ戦術判断がなされたこと。

戦術は、交渉権を持つエリア本部の交渉進捗の中で高めていくのであり、その戦術判断はエリア本部が行わざるを得ない実態が浮き彫りとなった。

今春闘で議論された要求の立て方やプロセスなどの課題を17春闘に活かすためにも各級機関が総括的議論を深め、方針と判断の整理を図る努力を。

3. 組織強化・拡大

組織拡大の取組みの成果。大会以降19人が国労加入し、内、青年部対象者が8人。06年の東日本、08年の貨物と一括和解を経て情勢の変化を作ってきた。仕事を通じて仲間の信頼を得る努力の成果であり、教条的な理屈や経験の押し付けでは得られないもの。拡大できた分会や加入した青年に学び、粘り強く職場での信頼を得る日々の努力を積み上げよう。

回の交渉を持ったが、現時点でベア・夏季手当の回答はなし。

全体討論

・ 今の国労の現状では国労に来いと。客貨一体には程遠い。互いの置かれていない状況が理解できていない。ストは戦術であるが、目的、目標、総括し、来春闘は客貨一体でストで闘えるよう今から準備を。

貨物福島

・ ストで闘う気概がない。組合事務所での抗議集会では抗議の相手が不明。支社前で抗議集会を。ベアゼロでストなし。労働運動なのか。少数組合だから仕方ないのか。最近では最初から諦めムード。高齢化も一因、若手の加入が最重要。貨物はJRで福利厚生は最低。若手の退職も当然。

仙台分連協

・ デモ行進に支社前ルートがない。工夫を。北部現業で朝チラシをしたが、会社施設等で集会后に勤務に入る行動を。再雇用制度。希望・予定通りでない。65歳定年延長を強く求める。

郡山設備分会

・ 昨年はやり切れなかった。一人一要求から現場長交渉で職場改善と運動を通じて組織拡大へ。昨年2人の30代組合員が誕生、彼らの熱い思いに応えるためにはと分会

・ 住環境制度。平成34年に退去。改善を求める署名を実施しては。戦術判断は各エリアにあると聞くがなぜ東日本はストを決定しなかったのか。全国、東日本大会の立候補者による立会演説会の実施を。

仙台電力区

・ 安全問題を検証する集会では、誰がいつ被害者

・ 集会で「新採への組合説明会と食事会」の成功に向けた意思統一。電、信、保、幹保各班で東労組分会に「国労も組合説明会を実施するの」でそれまで加入は待つて」と要請。各班合計8人の新採と交流。組合員からはやってよかったの声。言葉だけでなく、文字通り組織一体の活動、また東労組にも国労の決意をアピール。

宮城県支部

・ 次の春闘で要求を勝ち取るための総括会議に。現場の声や要請に応える

・ や加害者になってもおかしくない現状を伝えたい。執行委員会の定例化を図っている。主務職の組合員、新入社員教育や管理職の業務との板挟み。技術継承を求められ、本来業務もあり大きなストレス。7月参議院選挙、地本として労働組合が果たす役割を考え行動提起を。

小牛田運輸区

・ 2日間の全体集会以6項目の要求作成。会社と日程調整がつかず、各班毎に要請の方向。会議ではストの議論もあつたが意見が別れた。新採対策は接触に苦慮。乗務員の運転状況を動画で晒されるなど気の休まらない状況。運転士の手待ち時間での列車の監視が不十分と強い指摘。戒告処分も予定。3分会学習・交流会を

仙石線駅連合

・ 春闘は全ての諸行動に参加。ストなしは残念の声。スト基金の現状は。万一不足の場合は基金再開も必要では。闘う国労の運動継承を。

郡山駅連合

・ 加入した職場の若手は役員もしていたが、選挙の話が長くて嫌気が。組合説明会も大切だが、職場で主導権を握ることから他労組との違いを感じてから。拡大行動は年中行事。一回限りの説明会や歓迎会ではなく、常に関わりを持つことが大事。

・ なぜスト指令を出さないのか。ストをやらない、やれない理由でなく、やる方向で現場に入り指導力を発揮し次の闘いに。旅客の人は期末手当を貨物と比較し満足するのではなく、怒りを持って共に闘う取組みを。

仙台建築

・ 職場要求。他労組若手も含めた要求20項目を現場で話し合い。特に超勤問題。管理者の業務管理や指示の問題を指摘。後日まとめの集会和情報を若手にも配布。組織対策。同時組合説明会を東労組に持ちかけ、実施はできた。

貨物宮城

・ 門前チラシ3日間、現場申し入れ、本社・支社FAX行動34回、個人・ジャンボハガキ行動、署名百筆、本部・エリア本部要請行動、エリア本部スト要請FAX、再回答を求め本社FAX16回。門前行動に旅客の仲間が多く参加し感謝、単一組織の良さ。

・ 加入した職場の若手は役員もしていたが、選挙の話が長くて嫌気が。組合説明会も大切だが、職場で主導権を握ることから他労組との違いを感じてから。拡大行動は年中行事。一回限りの説明会や歓迎会ではなく、常に関わりを持つことが大事。